

国語国文学会だより



No. 31

日本文学科卒業生の会

2005 12. 2004 9

国語国文学会

春の総会・研究発表会報告

平成十六年度春の総会・研究発表会を五月二十七日(木)、八十年館八五一教室にて開催しました。

◆第一部 総会

(1) 国語国文学会会長挨拶

清水康行先生

(2) 奨学金授与

上村悦子奨学金

院博士課程前期二年次

近藤華子氏

院博士課程後期三年次

宮本祐規子氏

日本女子大学日本文学科賞(奨励賞)

学部四年次

家森善子氏

(3) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介

(学生会の会・卒業生の会)

(4) 平成十五年度活動・決算報告

(5) 平成十六年度活動計画案・予算案・監査選出

(4)(5)については、学生、卒業生より各々報告説明を行い、各案件とも審議後承認

(6) 自主ゼミ発足(学生の会・卒業生の会)、承認

◆第二部 活動報告と研究発表

交換留学生紹介及び挨拶

学部三年 ミックニア、サーニャ・ケイ(ウェ

ルズリー・カレッジ)

ロバートソン、カレン・エイチ(ウェルズリー・カレッジ)

秋季大会・公開講演会のご案内

▼日時 平成十六年十一月二十七日(土)

▼場所 八十年館八五一教室

▼公開講演会

▼題目未定

幸田弘子氏

☆講師略歴

幸田弘子(こうだ ひろこ)

東京都生まれ。NHK東京放送劇団に入り、放送・舞台で活躍。主演した音楽詩劇

「オンディーヌ」は文部大臣賞、イタリヤ賞

大賞受賞。

舞台で古典から現代文学作品までの朗読を

続け、七七年から毎年「幸田弘子の会」を開

催。舞台朗読という新しい分野を確立した功

績により、八一・八二・八四年の芸術祭優秀賞

受賞。八四年芸術選奨文部大臣賞、九五年毎

日芸術賞を受賞。九六年紫綬褒章受章。平成

十四年度第四〇回藤村記念歴程賞受賞。

主な朗読作品に「樋口一葉作品集」(東芝

EMI)、「源氏物語」(新潮社)、「おくのほそ

道」(NHKサービスセンター)など。

▼講演

義経伝説と能

▼懇親会

講演会終了後、ワイミンにて(予定)

会費 三千元(学生千五百円)

* 研究発表会 二十七日午前

(発表者募集)

詳細は四面参照

▼報告

九条殿御遺戒く故実書としての役割く

有職故実ゼミ 大口枝里子氏

鴨長明を読む

中世文化論ゼミ 山田佐知子氏

▼研究発表

中世寺院における稚児と稚児物語

——稚児物語『あしびき』の再考——

新54・院博士課程前期一年次 矢口祐子氏

安房直子の初期作品における〈色彩〉の役割

新54 高島亜由美氏

平成十五年卒業生の会活動報告

(1) 総務

・ 回生委員会・常任委員会の召集

・ 春季総会・研究発表会の開催

五月二十二日(木)

(2) 企画

・ 自主ゼミの活動

平安文学談話会・皇女研究会・古代中世文化論

文学散歩の実施 十月二十五日(土)

・ 秋季大会の開催 十一月二十九日(土)

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

(3) 会計

・ 会費納入の確認

・ 収支・運営・備品の完備など

(4) 編集

・ 「国語国文学会だより」の発行

二十九号(春の大会報告号 八月)

・ はがき通信 四月(春の総会案内)
・ はがき通信 十月(秋季大会案内)

平成十六年度卒業生の会活動計画

(1) 総務

・ 春季総会・研究発表会の開催 五月二十七日(木)

(2) 企画

・ 自主ゼミの設立

・ 秋季大会の開催

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

・ 文学散歩の実施

(3) 会計

・ 会費納入への協力依頼

・ 活動充実のための備品の整備・購入

(4) 編集

・ 「国語国文学会だより」の発行

秋の大会報告号・四月

春の大会報告号・秋の大会案内号・八月

・ はがき通信 十月

日本女子大学国語国文学会卒業生の会 平成15年度決算報告(平成16.5.27)			
【収入の部】		(円)	
項 目	予 算	決 算	増 減
前年度繰越金	140,482	140,482	
会 費	750,000	530,330	△ 219,670
利 子	0	10	
寄 付	0	0	
計	890,482	670,822	△ 219,660
【支出の部】			
通信費	400,000	271,580	△ 128,420
文具費	3,000	1,950	
コピー代	5,000	0	
会報印刷費	100,000	70,475	△ 29,525
名簿作成費	100,000	0	△ 100,000
委員会活動費			
・ 委員会費	20,000	16,244	
・ 交通費	40,000	36,000	
・ 行事費	10,000	0	
ゼミ費	30,000	30,000	
大会費用	100,000	100,171	
講演料	(60,000)	(60,000)	
諸経費	(40,000)	(40,171)	
慶弔費	5,000	0	
パソコン関係諸費	50,000	39,453	△ 10,547
予備費	27,482	0	
計	890,482	565,873	
次年度繰越金 ￥104,949			
上記の通り決算報告致します。			
会計 津田 英子 斉藤 令子			
監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。			
監査 金石 教子 多田 孝子			

平成十六年度常任委員

総務 児玉久美子（旧46）土橋ユリヨ（新31）

藤木直実（院31）稲田千恵子（院33）

企画 立川和子（新1）関根緑（旧44）

新妻佳珠子（新3）平山静（新34）

会計 津田英子（新6）斉藤令子（新6）

編集 中田和子（院27）福原房枝（新28）

斎藤規知（院35）小長井晃子（院33）

黒川晴美（新33）倉田智子（新31）

本年度の会計監査は金石教子さん（新12）、多田孝子さん（通30児）です。

平成十六年度研究サークル

*平安文学談話会（古筆を読む）

金曜日 午後四時半（年十回）日本文学研究室

・高野晴代 TEL〇三（三三七〇）六八〇六

*皇女研究会（皇女総覧平安朝篇の作成）

不定期 土曜日午前十時半 大学図書館共同研究室

・柳澤理恵子 TEL〇四五（八四二）六五二五

*古代中世文化論ないし芸術論

毎月第四木曜日 午後一時半〜三時半

・山田佐和子 TEL〇三（三九七二）四八四三

○『国文目白』第四十三号ができました。ご希望の方は葉書で左記までお申し込みください。

〒一一二・八六八一 文京区目白台二・八八一

日本女子大学日本文学科研究室『国文目白』係
代金は、冊子到着後に払い込んでください。

（送料別 七百円）

国文目白第四十三号

笠女郎の文字「為形」

と「面影」——万葉集

巻四・六〇二番歌——

想像の鍵——八木京子

露「白妙」に見る色

相の独立——皆川美穂

一条戻橋考
藤本恵理子

△われもかう▽試論
服飾からみた『とはず

がたり』——鈴木春奈

『けいせい伝受紙子』論
宮本祐規子

『一谷嫩軍記』論
身代わり劇の構造

村田春海の画賛
細谷幸代

『或る女』——時代

の申し子としての葉子
田代一葉

尾崎翠『こほろぎ嬢』——女性詩人の闘い
持田陽子

『香に匂ふ』——「かげ膳」を据えたがる八女たち
三輪初瀬

ち▽——小林美恵子

田村俊子主宰『女聲』の総目次（翻訳）
劉英順

モダリティ副詞「やはり」の情報制御機能について
市村美和子

韓国語母語話者の日本語の条件表現「と・ば・たら」
金宣伶

なら」の修得過程

日本女子大学国語国文学会卒業生の会 平成16年度予算（平成16.5.27）	
【収入の部】	
項 目	予 算
前年度繰越金	104,949
会 費	600,000
計	704,949
【支出の部】	
項 目	予 算
通信費	270,000
文具費	3,000
コピー代	5,000
会報印刷費	75,000
名簿作成費	100,000
委員会活動費	
・委員会費	15,000
・交通費	36,000
・行事費	5,000
ゼミ費	30,000
大会費用	100,000
講演料	(60,000)
諸経費	(40,000)
慶弔費	5,000
パソコン関係諸費	40,000
予備費	20,949
計	704,949

研究室だより

○石田敏子先生が、平成十六年三月末をもって定年退職なさいました。平成十一年度より五年間、日本語教員養成講座の中核として、学生・教員をお導きくださいました。ますますの御健勝と変らぬ御活躍をお祈り申し上げます。

○近世文学担当の鈴木健一先生が、平成十六年三月末をもって退職され、学習院大学に移られました。平成十二年度より僅か四年の御在任でしたが、学科のために尽力くださいました。ますますの御発展をお祈りします。

○石田先生の後任として、江田すみれ先生を杏林大学よりお迎えしました。日本語教育学、特に文法研究、文法指導を御専門とされています。

○鈴木先生の後任として、児玉竜一先生を東京文化財研究所よりお迎えしました。近世文学、特に歌

舞伎研究を御専門とされています。

○ 昨年度後期、サバティカルを取られていた源五郎先生（近代文学）が、御帰任にられました。

○ 本年度後期には、谷中信一先生（中国思想史）が、サバティカルに入られる予定です。

○ 高橋智子先生（近代文学）が、長期の欠勤をなされています。御本復をお祈りします。

○ 他の先生方は昨年と変わりありません。

平舘英子先生（上代文学）

後藤祥子先生（中古文学）

石井倫子先生（中世文学）

倉田宏子先生（近代文学）

藤原浩史先生（日本語学）

田辺和子先生（外国人留学生特別科目）

田中功先生（図書館情報学）

清水康行（日本語学）

○ 助手さんは、白石美鈴さん、溝部優実子さん、八木京子さん、非常勤の小林美恵子さんと、昨年度と変わりありません。

○ 昨年度末の三月六日、本学学術交流研究として公開講演会「日本女子大学に学んだ文学者たち」が開催されました。同会に合わせて、『年表』日本女子大学に学んだ文学者たち』も作成されました。いづれも、本学同窓会の（社）日本女子大学教育文化振興桜楓会が、本年、創立百周年を迎えるのを記念する意も込めたもので、倉田宏子先生を中心に、多くの本学科出身の方々の協力を得て、大きな成果を得ることができました。

○ 本学科卒業生で国語科教員を勤めている方々を

中心とする国語科教員の会も、第四回目を迎え、恒例となりつつあります。本年は八月七日に開催され、平岡敦子氏（新制五十一回卒、愛農学園農業高等学校）による教育活動報告「共育の場で共に学ぶ―日本で唯一の私学の農業高校で―」が発表され、教職志望の学生も加えた参会者に感銘を与え、活発な質疑応答が展開されました。

○ 本年度の国語国文学会の本年度の担当は、平舘先生、藤原先生、白石さんです。

○ 学科長が、二期四年間務められた倉田先生から清水に交代しました。（清水記）

◆研究発表会 発表者募集

・ 日 時 平成十六年十一月二十七日（土）

・ 発表時間 三十分、質疑十分

・ 応募資格 本学国語国文学会の会員であること

・ 応募方法 四百字以内に発表要旨をまとめ、論

題とともに申し込む。

・ 応募先 日本文学科研究室内「国語国文学会

・ 締切り 秋季大会研究発表者募集係」宛
平成十六年九月二十八日（火）

・ 選考方法 国語国文学会において選考を行い、

・ 選考結果は後日、個別に通知いたします。

◆おことわり
今回の会計監査は大会の直前に行われました。そのため、参加者に配布された決算報告は、監査の印をいただく前の段階のものとなりました。今号に掲載の報告は配布資料と同一のもので、押印済の報告原本は卒業生の会で保管しております。

◆文学散歩、お休みにします――

秋恒例の文学散歩、楽しみにお待ちの会員も大勢おいでかと思いますが、今年は都合によりお休みさせていただきます。

来年は新企画で――と思っておりますので、どうぞ、ご了承ください。（企画係）

○総務より

平成十七年度の会員名簿発行を予定しております。お名前、ご住所等に変更のあった方は卒業生の会までお知らせくださいよう、お願いいたします。また、宛先不明で戻ってくる「たより」が毎回相当数ございます。お知らせの方の住所変更につきましても、差し支えない範囲でご連絡いただけると幸いです。

○会計より

振替用紙を同封いたしました。本年度会費千円の納入を十一月末日までお願いいたします。尚、複数年度の会費を既にお納めいただいている方には用紙をお送りしておりませんが、万一手違い等ございましたら、会まで一報くださると共に、何卒ご容赦くださいますよう、お願いいたします。

二〇〇四年九月一日

発行・日本女子大学日本文学科

国語国文学会卒業生の会

〒二二、八六八―東京都文京区目白台二一八―一

日本女子大学 日本文学科内